

よいことのために  
手を取りあおう

**2025-2026**

**No.1810**

**2025.11.13**

会長：茂木清七 幹事：小澤博之  
会員数：50(内3名特別会員) 会場出席：28 欠席：22  
出席率：59.57% 前回出席率：100%  
点鐘：茂木清七 会長 司会：小林若葉 S A A  
ロータリーソング：四つのテスト・沼田中央ロータリーの歌 (ソングリーダー：坂井 隆)  
例会場：ホテルペラヴィータ 3F 12:30～

ロータリーを語ろう

### 来訪ロータリアン・お客様

- ・国際ロータリー第2840地区  
国際大会推進委員会 川鍋太志 委員長 (高崎南RC)
- ・利根沼田歴史散歩の会 高山 正 様

### 会長の時間

茂木清七 会長



皆さん、こんにちは。

先日私が参加してきました全国棚田サミットのお話をさせて顶きます。今回の全国棚田サミットの会場は、大分県別府市での開催でした。第30回の開催にあたり、全国各地より総勢900名の方々が集まり開催されました。棚田の定義は、面積が1ヘクタール以上で傾斜が5% (100m行って5m) 上がっていれば棚田と認められるそうです。

その総会場で3年後の開催地の決定があり、2028年度の第33回全国棚田サミットの開催地に群馬県沼田市が決定致しました。

沼田市の棚田は現在、薄根地区の石墨棚田と川田地区の平井棚田の2か所だけですが、今後は池田地区でも取り組みが始まります。

私の地元であります平井棚田は、利根川から川田コミュニティセンターに向かって続いている棚田です。現在は17号バイパスが出来て棚田が分断されてしまったのですが、この平井棚田の歴史は古く、西暦400～700年頃ではないかと言われています。このような自然が今も残っているという事が素晴らしいと思います。15年以上荒れていた田んぼを昨年度より耕して、今年度は20aの田んぼで16俵のお米がとれました。米不足と言われていますが、もう一度棚田など見直す機会になったのかと思います。是非ロータリークラブでもそのような体験が出来るといいなと考えます。

以上で会長の時間とさせていただきます。

### 幹事報告

小澤博之 幹事



- ① 11月20日の例会は休会となります。
- ② 11月24日(月)にIMが開催されます。12時から準備をして、登録受付は13時からとなります。
- ③ 本日例会終了後、理事会があります。
- ④ 各クラブから例会変更の案内が届いています。メーク等検討されている方は幹事まで連絡下さい。

### 国際大会のご案内



地区の国際大会推進委員会 川鍋太志委員長より、台北国際大会のご案内がありました。

2026年6月14日(日) 開会式 台北ドームにて  
夜には地区ナイトが開催されるので、多くの会員の皆様にご参加頂きたいとのことです。



ソングリーダー 坂井 隆 会員

国際大会推進委員会 川鍋太志 委員長（高崎南RC）

今日は沼田中央RCにおじゃまします。6月の台北での国際大会、よろしくお願いします。

茂木 清七・小澤 博之

①本日の卓話「幻の製紙工場」のお話、楽しみにしております。いつもいつも高山先生ありがとうございます。

②国際大会推進委員会 川鍋委員長（高崎南RC）ようこそいらっしゃいました。ご来訪ありがとうございます。

生方 彰

①2840地区国際大会推進委員長 川鍋太志様のご来訪に感謝致します。

②高山様のお話楽しみにしております。

宮田 美行

いつも大変お世話になっている高山正先生、本日の卓話楽しみにしております。

高橋 和朗

懐かしい顔を拝見して。地区の国際大会推進委員会委員長の川鍋太志君の来訪を歓迎してBOX IN致します。



12月11日（木）18時30分～ ベラヴィータ2階



11月24日（月・振替休）ベラヴィータ2階

沼田中央がホストクラブとなるので、12時集合で準備をお願いします。登録受付は13時からで、14時開会となります。

## 本日の卓話



利根沼田歴史散歩の会 高山 正 様  
「わずか一年 利根製紙」

平成14年（2002）に県立図書館で調べ物をしていた時、ふと「幻の製紙工場 利根製紙発掘物語」という書籍に目が留まり、大変興味のわく内容に何とかこの本を手に入れたいと、発行者を調べ、電話をかけ、その旨を伝えた。著者である野口氏は快く応じてくれ、書籍小包が届いた。しかし現地を見たことがないジレンマが一年ばかり続いた。

そんな或る日、「現地調査を一緒にしてもらえるか？」といった内容の手紙が届き、心躍り、まず県立図書館での調べを一緒に行う事となった。図書館で初めて対面し、図面関係などを調べ、現地調査の日程を決めた。

四日後、現地での調査に取りかかった。明治40年当時の図面や文書に残されているちょっとした言葉と現地との符号。水路の跡が大部分くっきり残り、人の身長よりも高

く、そして広く、岩盤をくり抜いた形跡も見ることが出来る。水路跡を辿ると途中に沢を渡る場所が出てくる。この沢をどのように渡るかというと、図面や写真には、大きな水路橋、水路のための橋を沢に掛けて渡っていた事が判った。写真の裏書きには「水路中に架設の木橋・長さ四五間（81m）……」とあった。

しかし私はここで大きな疑問を抱いた。木でできた水路橋が雪で潰されないのか？

この疑問は桐生市にお住いの野口氏にはすぐには判ってもらえず、雪の重みや雪解け時の引っ張りの強さを説明した。

この利根製紙は、明治40年8月に本格稼働したが、翌年の春頃より雲行きがおかしくなり、11月には工場が全部閉鎖されてしまい、明治42年5月20日解散登記。わずか1年の工場稼働であった。

